

# 琉球大学学術リポジトリ

## 研究室紹介（県農業試験場園芸支場野菜育種研究室）

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-04-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017124">http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017124</a>

## 県農業試験場園芸支場野菜育種研究室

本研究室は、平成6年4月に園芸育種研究室を野菜育種研究室、花き育種研究室に分離し設立された研究室である。研究室員は3人（室長、研究員、農業技術補佐員）で構成されている。

当研究室の研究課題の背景とこれまでの研究成果を紹介し、これからの野菜育種研究の展望について述べてみたい。わが国の野菜の品種育成は、主に民間の種苗会社を中心となって品種育成を行い、公的機関は栄養体繁殖の野菜（イチゴ等）や、病虫害抵抗性を有した中間母本の作出を行っている。民間主導型のために育成された品種はキュウリ、メロン、スイカ、白菜、キャベツ等の主要野菜が主で、マイナーな地方野菜（在来野菜）の品種改良は著しく遅れている状況である。

地方野菜（在来野菜）は、長い年月において自然淘汰され、また、栽培農家の選抜や交配による所産である。これらの野菜は、栽培地域に適した有用な遺伝子を有しており、貴重な遺伝資源でもある。しかしながら、ニガウリを例にしても多様な形質（系統）があるため、自然交雑のため遺伝的に均一でなく、同一圃場での均一性に欠け、営利栽培が困難である。営利栽培を行うためには高品質で商品化率が高く、収量の高い品種であることが不可欠である。

当研究室は、ポスト・ミバエにおける県外出荷品目の中でニガウリを重要な品目と位置づけ、高品質で高

収量な品種の育成に前研究室時代から取り組んできた。1992年10月にニガウリの新品種「群星、むるぶし」が育成され、品種登録の申請を行った。新品種「群星」は、ニガウリの品種育成では初の雌花型育種法によって育成されたF1の品種である。従来の栽培種に比べて収量が1.5～2倍と高く、果実の揃いも良く濃緑色である。平成6年度は、約13万本が（株）サザンプラントから農家に販売され、栽培ハウス面積の約80%を占めた。1994年には新たな組合せを行い、品種育成に努めている。

サヤインゲンは県外出荷が最も多い品目である。つる性と矮性が栽培され、出荷期間は11月から4月であり、寒さに強く、暑さに弱い特性を有している。熱帯農業研究センター（現、国際農研）は豆類の遺伝探索を行い、収集された種子のなかで栽培が困難な高温期に着実が行われる蔓性の系統を選抜した。この系統「仮称、石垣1号」を当研究室が1992年から3年間かけて地域適応試験を行い、高温期で栽培が可能な事を確認し平成8年度から普及に努める計画である。また石垣1号を育種素材に、耐暑性が高く、高品質のサヤインゲンの品種育成に取り組んでいる。

沖縄県は亜熱帯海洋性気候に属し、冬春期の温暖な気候は野菜栽培に有利ではあるが、夏季の高温、台風、干ばつ等は野菜栽培を困難にし、大きな不利性となっ



新品種「群星」



耐暑性品種「仮称、石垣1号」

ている。その上栽培されている主な野菜は、本土の温帯気候に適した品種がほとんどで、亜熱帯気候に適し

た品種の育成による高収益、高品質の生産が急がれている。  
(坂本守章)